

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名	環境局
-----------	-----

基本計画	柱	きずなを結ぶ
	大項目	信頼のきずなによる安全で安心できるまちづくり
	取組みの方針	医療・衛生管理体制の充実

担当局 / 総務担当課名	環境局	総務課
連絡先	582 - 2182	

21年度計画

-1-(2)-

施策名	健康危機管理体制の充実
------------	-------------

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	新型インフルエンザなどの感染症や光化学オキシダントなどの環境汚染物質による市民の健康被害の拡大を防止する
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	医療・衛生管理体制の充実

成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	現状値		計画	平成21年度	目標値	
	年度				年度	
整備・更新した機器の数	年度	-	計画	4機器	年度	25
環境科学研究所における検査・分析の精度向上、効率化、対象項目の拡大を図るため、機器を整備・更新する。	現状値	-	実績	3機器	目標値	現在の水準を維持・向上
			達成度	75.0 %		
	年度		計画		年度	
	現状値		実績		目標値	
			達成度	%		
	年度		計画		年度	
	現状値		実績		目標値	
			達成度	%		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]			事業費	2,604 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)
				うち一般財源	2,604 千円	2,025 千円

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
	A	老朽化した設備や分析機器を緊急性の高いものから順に更新し、必要なレベルを維持・向上させている
今後の局施策の方向性	引き続き、施策目標に向け、取組みを進める	

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

担当局の評価に対する意見(財政局・企画文化局)

適切な評価
 下記のとおり

環境汚染物質による市民の健康被害の拡大を防止するには、なぜ設備や分析機器の更新が必要なのか示す必要があと考えます。

事業評価票

平成21年度実施事業

新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	環境局	環境科学研究所環境研究課
連絡先	882-0333	

基本計画	柱	きずなを結ぶ
	大項目	信頼のきずなによる安全で安心できるまちづくり
	取組みの方針	医療・衛生管理体制の充実
	主要施策	健康危機管理体制の充実

関連計画	
事業期間	昭和49年度より
経費区分	裁量的経費

-1-(2)-

事業名	環境科学研究所の分析機器及び庁舎の整備
-----	---------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	新型インフルエンザなどの感染症や光化学オキシダントなどの環境汚染物質による市民の健康被害の拡大を防止するために必要な調査が行えるよう、分析機器を整備・更新する。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	健康危機管理体制の充実	成果	整備・更新した機器の数	

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		現状	インキュベータ、分粒装置、防爆冷蔵庫他を更新	窒素濃縮装置を更新予定	マイクロ波式反応加速システム・超音波洗浄機を更新予定	HIVウィルス検査用安全キャビネット・電子天秤を更新予定	全リン分析用前処理用オートクレーブ・超純水装置を更新予定		H21の分粒装置については、限られた予算の中で、緊急性と重要性を考慮し、更新を見送った。	
	実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）						平成21年度	目標	
		整備・更新した機器の数						計画	インキュベータ2台、分粒装置、防爆冷蔵庫を更新 4機器	年度
		環境科学研究所における検査・分析の精度向上、効率化、対象項目の拡大を図るため、機器を整備・更新する。						実績	インキュベータ2台、防爆冷蔵庫を更新 3機器	内容
								達成度	75.0 %	年度
								計画		内容
								実績		内容
	コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度：執行額]						事業費	2,604 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)
								うち一般財源	2,604 千円	2,025 千円
単年度計画										

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	老朽化により不調となっている機器のうち緊急性・重要性を勘案し、21年度に予定していた整備・更新を実施した
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	4	事業実施の為に必要な機器の更新ができた
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	必要な能力を維持しながら省エネ型に更新できた
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	機材が故障した場合、環境科学研究所が実施する検査・分析に重大な支障をきたす
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		4	食中毒検査等、行政が実施することが定められている
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了	ア	市民の健康被害の拡大を防止する為には、迅速かつ正確な検査が可能な設備を整備しておく必要がある。今後も緊急性と重要性を考慮し、順次分析機器の整備・更新等行いたい。